

HA. 健康(医療・健康)(VHS)

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
●	●	HA2007-001	A-3	きょうの健康 認知症 予防・治療の最前線 もの忘れ? アルツハイマー病?	年を取ると誰でも"もの忘れ"をしやすくなるが、生活に支障が出るようなもの忘れをするようになったら要注意。一度、"もの忘れ外来"を受診し、"認知症"が起きているかチェックしよう。それというのも、認知症で一番大切なことは、早期発見・早期治療だからだ。 4回シリーズの1回目で、アルツハイマー病の検査、治療、予防について解説する。(山田正仁(金沢大学大学院教授))	15
●	●	HA2007-002	A-3	きょうの健康 認知症 予防・治療の最前線 増えている レビー小体型認知症	"レビー小体型認知症"は1976年に症例が発見され、近年一般にも知られるようになった認知症の1つ。高齢者の意識がはっきりしている時に、具体的な幻視の症状が出た場合、この病気の可能性が高いという。また、パーキンソン病のような身体症状も現れるという。 4回シリーズの2回目で、"レビー小体型認知症"の症状の特徴や治療法について解説する。(小坂憲司(聖マリアンナ医科大学研究所長))	15
●	●	HA2007-003	A-3	きょうの健康 認知症 予防・治療の最前線 ここまで防げる 脳血管性認知症	脳血管性認知症の原因となるのは、脳出血や脳こうそくなどの脳血管性障害。脳血管性認知症では脳出血を再発することに認知症が重度化していくため、脳出血などの原因疾患の再発を防ぐことがとても大切になる。脳出血などにつながる、高血圧や糖尿病などの生活習慣病を持っている人は、特に注意が必要だ。(長田乾(秋田県立脳血管研究センター部長))	15
●	●	HA2007-004	A-3	きょうの健康 認知症 予防・治療の最前線 早期診断が大切	認知症では、早期に病気の種類を確定し、治療を開始することがとても大切だ。認知症の早期診断に、いま大きな成果を上げているのが「画像診断」。画像診断にはCT・MRI・SPECT・PET等の種類があり、それぞれを目的に応じて組み合わせることで、高い診断率が得られる。認知症の治療に大きな役割を果たしている画像診断の最新情報をお伝えする。(松田博史(埼玉医科大学教授))	15
●	●	HA2009-001	A-3	きょうの健康 正しく知ろう 統合失調症(1) 症状や原因を知る	統合失調症の主な症状について解説する。 統合失調症は、脳の一部の機能がバランスを崩して起こる病気と考えられており、その症状には、主に『陽性症状』『陰性症状』『認知機能障害』がある。 『陽性症状』は、「幻聴」「幻視」「幻臭」「幻触」などの「幻覚」と、「妄想」が特徴的な症状。『陰性症状』は「感情表現がにぶくなる」「考える力の低下」で「意欲の減退」が主な症状である。『認知機能障害』は、独特の情報の受け取り方や行動の選択をして状況に応じた適切な行動がとれずに日常生活に支障をきたす認知障害である。(丹羽真一(福島県立医科大学教授))	15
●	●	HA2009-002	A-3	きょうの健康 正しく知ろう 統合失調症(2) 最新の薬物治療	統合失調症に使われる主な薬について解説する。 統合失調症は、脳の神経伝達物質の働きが強すぎたり弱すぎたりして、脳の一部の機能が崩れるために起こる。このため治療には神経伝達物質のバランスを整える作用がある『抗精神病薬』を使用する。『抗精神病薬』は「従来型抗精神病薬」と「新規抗精神病薬」に大きく分類される。それぞれの効果や副作用について説明する。(丹羽真一(福島県立医科大学教授))	15
●	●	HA2009-003	A-3	きょうの健康 正しく知ろう 統合失調症(3) 自立した社会生活に向けて	統合失調症の治療の基本の1つである精神療法や心理社会療法について解説する。薬物療法にこれらの治療法を組み合わせることで、再発する確率を低く抑えることができる。精神療法は、病気で負った心の傷やダメージを癒すことが目的。心理社会療法は、作業や訓練を通して社会復帰のためのリハビリを行う。(丹羽真一(福島県立医科大学教授))	15